



ふじみ



5月号

「失敗から成長する」

校長 北 健

富士見小学校の今年度の課題の一つに「体力の向上」があります。体力の向上の一番は運動好きな子どもに育てることです。運動をやっていると必ず失敗することが出てきます。その失敗を乗り越えた子どもが大きく成長しているのを感じるときがあります。

高校野球で「ハンカチ王子」として甲子園を沸かし、優勝投手になったプロ野球の「日本ハムファイターズ」**斎藤佑樹投手の父、斎藤寿孝氏**がインタビューで次のようなことを応えていましたので、簡単にご紹介します。

最近の教育や子育ての現場を見ていて気になるのは、「子どもが失敗する前に手を差し伸べる」「子どもが間違えないように導く」ことに一生懸命になっているのではないかと思います。

私は、「大切なことは失敗の先にある」と考えています。失敗をして立ち直る。その繰り返しが「成長する」ということではないでしょうか。

スポーツのよいところは、必ずたくさんの「負ける経験」「失敗する経験」を積めることだと思います。

小さな失敗や過ちを犯さず大きくなれる子どもはいません。いきなり大きく人の道をそれてしまうような子どももいません。大切なのは小さな失敗に対して大人がどれだけ時間を割いて、心を傾けて子どもの言い分を聞いてあげられるかだとも思います。

自分の成長の時間軸を大人は忘れてしまうのです。同じ年齢の時、自分がどうだっただろうと考えれば、もう少し余裕をもって子どもを見守ることができると思います。

体育の授業でのチームゲームではトラブルが多く発生します。「〇〇君のせいで負けた」「〇〇さんがシュートはずした」などという言葉からです。しかし、おもしろいことに最初トラブルが多かったチームが、しだいに、トラブルの無かったチームより強くなっていきます。子どもが自分たちの力で失敗を成長させていく好例です。私たちは、つい「子どもが失敗していやな思いをしないように」ということに配慮してしまいが、**失敗を成長の一過程としてみる余裕**がほしいと感じています。